

平成29年度 第6回豊岡市教育委員会の会議（定例会）会議録

○ 開会及び閉会の日時及び場所

平成29年9月26日（火）

場 所 豊岡市役所但東庁舎2階 大会議室

所 在 地 豊岡市但東町出合150番地

開会時間 午後1時30分

閉会時間 午後3時40分

○ 出席教育長、委員の氏名

教育長 嶋 公治

委員（教育長職務代理者） 深田 勇

委員 中川 茂

委員 佐伯 和亜

委員 向井 美紀

欠席委員 なし

○ 教育長、委員及び傍聴人を除くほか議場に出席した者の氏名

事務局 教育次長 丸谷 統一郎

教育総務課長 和藤 達也

こども教育課長 能登 琢也

こども教育課参事（こども支援センター所長） 福富 省吾

こども育成課長 宮本 ゆかり

教育総務課参事 正木 一郎

教育総務課教育総務係長 若森 和歌子

事務局以外 地域コミュニティ振興部長 岸本 京子

生涯学習課長 小谷 士郎

○ 日程

第1 会議録署名委員の指名

中川 茂 委員

第2 前回の会議録の承認

平成29年8月18日（金）開催 第5回定例会

第3 教育長の報告

#### 第4 地域コミュニティ振興部の報告

##### 1 文化振興課

- (1) 第68回豊岡市美術展について

##### 2 スポーツ振興課

- (1) とよおかスポーツフェスティバル2017の開催について
- (2) 第50回日本女子ソフトボール1部リーグ豊岡大会の開催について

##### 3 生涯学習課

- (1) 夏休みラジオ体操顔見知り運動の実施結果について
- (2) 図書館まつりの開催について
- (3) とよおか家族の日写真コンクールの結果について
- (4) 野生復帰まつりの開催について

#### 第5 議事

- 議案第18号 教育財産の用途廃止について
- 報告第15号 平成29年9月市議会答弁概要について
- 報告第16号 寄附物件の受納について

#### 第6 教育委員会事務局の報告

##### 1 こども教育課

- (1) 全国学力・学習状況調査の結果について
- (2) PTCA地区別研究大会「豊岡の子どもを育てる会」の開催について
- (3) 豊岡市こども支援センターの活動報告等について

##### 2 こども育成課

- (1) 「豊岡市子育て支援ガイドブック」の官民協働発行にかかる協定の締結について
- (2) 平成30年4月1日開設の小規模保育事業者の選考結果について

#### 第7 委員活動報告

#### 第8 教育委員会活動予定

- 1 次回教育委員会会議の日程について
- 2 今後の活動・行事予定

---

開会 午後1時30分

(教育長)

ただいまから平成29年度第6回教育委員会会議を開会します。

本日は、すべての委員が出席していますので、会議が成立していることを報告します。

#### 【日程 第1 会議録署名委員の指名】

(教育長)

日程第1「会議録署名委員の指名」ですが、本日は、中川委員にお願いしたいと思いますので、よろしくをお願いします。

#### 【日程 第2 前回の会議録の承認】

(教育長)

日程第2「前回の会議録の承認」です。

平成29年8月18日に開催しました第5回定例教育委員会会議の会議録について、委員の皆様への承認を求めたものであります。事前に配付して確認をいただいていると思いますが、誤った点、修正などなかったでしょうか。

(委員)

なし。

(教育長)

「なし」という声がありますので、会議録は承認することに決定いたします。

#### 【日程 第3 教育長の報告】

(教育長)

続きまして、日程第3「教育長の報告」です。前回の教育委員会会議、8月18日から今回の定例教育委員会会議までの期間における主要な教育活動の概要について報告します。

#### 《教育長の報告概要》

8月28日(月)に小学校・中学校の教員が新教育課程の説明を受けた。小中学校は学習指導要領に沿って教育を行うが、約10年に1回改訂され、世の中の動きを盛り込み、全国の教育レベルの格差をなくすために改訂されている。小学校では平成32年度、中学校では33年度に新教育課程が全面実施される。小学校では、平成30年・31年は完全実施までの準備期間である。今回の説明会は、国から県、県から市に伝える伝達方式であった。

大きな変更点は小学校の英語が入ってくることである。現在、5年生・6年生は、外国語活動を行っているが、外国語科の教科として年間70時間、週に2時間の授業を行う。3年生・4年生は、現在、5年生・6年生が行っている外国語活動を年間35時間、週1時間実施する。3年生から6年生まで、それぞれ週に1時間授業時数が増える。増加分の時間確保が課題であり、文科省では、それぞれの学校、あるいは教育委員会で考えるようにとされている。今、4つの方法がある。1つ目は、週のコマ数(時間数)を1時間増やすことである。現在、5年生・6年生であれば水曜日だけ5校時であるが、その水曜日も6校時にして、30時間のコマ数を作る方法である。2つ目の案が土曜日に授業を行う。3つ目が夏休み期間を短縮して授業を行う、4つ目は、1つの

授業が45分なので、3分割して15分にして、毎日朝などの15分を3日間行うモジュール形式にする。以上、4つの考え方があり、どれを選択するか協議している。但馬全体で統一し、統一できなければ市独自です。子どもたちへの負担がないことを考えながら一番良い方法を考えていく。

体育祭は、中学校3校と小学校3校を視察した。中学校は大変落ち着いていた。城崎の小中の合同運動会も大変落ち着いており、入場行進も整然と行われており、先生も子どもたちも整った服装で、しっかりとした運動会であった。小学校の小規模校の運動会について視察した。小規模校では地域と一緒に運動会をされている。中竹野小学校の運動会では、子どもたちはとても少ないが、本当に周りが一生懸命見てくれており、見守られながら子どもたちが成長していることがよく分かった。しかし、コミュニティと一緒にするため、開会行事が多く、32分間ずっと子どもが立ちっぱなしであった。あいさつでは校長先生、コミュニティの会長、PTAの会長、振興局長、議員と5人がずっと話しっぱなしであった。これが子どもたちにとっていいのか疑問になったが、あいさつの間、動かずに聞けていたことはやはり周りが見てくれていないおかげではないかとも思った。一方、課題もある。1年生は2人なので、2人で1位・2位が決まる。それがずっと6年間続く。負けているほうはずっと負けているという可能性があるので、小規模校のこういう課題は子どもにとって解決すべきことではないのかと運動会を通して実感した。

15日は、ウィットマン中学校と約10名の中学生が国際交流する出発式に行った。帰国後、引率の校長にも話を聞いたが、ウィットマン中学校の受け入れ態勢が悪く、ぎりぎりまでホームステイ先が決まらず、結局、校長先生の家泊まったとのことであった。そういうことが続き、交流してから20年が経過していることもあるので、少し変えていかなければならないかなと考えている。詳しく説明できないが、豊岡総合高校がカナダのビクトリアにビクトリアキャンプという合同研修に行き、すばらしい成果を上げていると聞いている。これは中学校にも通用するプログラムで、英語の勉強をするのではなく、英語というツールを使って、いろんなことを一緒にする中でコミュニケーションする、まさに今求められている語学研修である。それにシフトすることを校長会ともやりとりしながら、検討している。これまで出石が中心になっていたが、全市に門戸を広げたいと考えている。

(深田委員)

新教育課程の説明会について説明がありましたが、英語については小学校では教科になりますよね。そうすると、免許との関係を文科省はどのように考えているのですか。

(教育長)

小学校の外国語科については、免許はいりませんので、今持っている小学校の免許で対応できます。ただ専門性が必要ですので、そのための専科教員を補充しなければいけない、確保しなければいけないことになります。財政にはその点を強調していますけれども、どうなるかわかりません。

【日程 第4 地域コミュニティ振興部の報告】

(教育長)

それでは日程第4「地域コミュニティ振興部の報告」に入ります。まず、文化振興課所管の第68回豊岡市美術展について、地域コミュニティ振興部長から説明をお願いします。

## 1 文化振興課

### (1) 第68回豊岡市美術展の開催について

《地域コミュニティ振興部長の説明概要》

資料に基づき、説明と表彰式の出席依頼をする。

今年度から準備期間を1週間短縮したため、各学校の作品搬入場所等を変更する。

教育委員に美術展の児童生徒の部の表彰式の出席と表彰式での役割を説明し、依頼する。

これまで表彰の盾は、四角い盾であったが、連続して受賞される方から大きくて置く場所がないとの意見もあり、準備期間が短くなったため従来の盾では間に合わない。そのため、今年度から表彰状とコンパクトなトロフィーに変更する。

(教育長)

ご質問等ありませんでしょうか。

(佐伯委員)

トロフィーに変更されるのは、一般の部ですか。

(地域コミュニティ振興部長)

一般の部です。児童生徒の部は、賞状とステッカーのようなものです。

(教育長)

続きまして、スポーツ振興課の(1)豊岡スポーツフェスティバル2017の開催について、(2)第50回日本女子ソフトボール1部リーグ豊岡大会の開催について、地域コミュニティ振興部長の説明をお願いします。

## 2 スポーツ振興課

### (1) 豊岡スポーツフェスティバル2017の開催について

《地域コミュニティ振興部長の説明概要》

チラシに基づき説明する。

例年、体育の日に開催している。ウェルストーク豊岡の広場周辺で行う。大勢の方に参加いただきたい。ラグビー教室とキッズチア教室は、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会の協力で開催する。

### (2) 第50回日本女子ソフトボール1部リーグ豊岡大会の開催について

《地域コミュニティ振興部長の説明概要》

チラシに基づき説明する。

2日間4チームが試合する。開催日は多くの地域が秋まつりであるが、この日しか選ぶことが

できなかった。ソフトボールはオリンピックの種目にもなったので、多くの皆さんに参加いただきたい。チケット販売の努力をしている。

(教育長)

ご質問等ありませんでしょうか。

(委員)

なし。

(教育長)

続いて、生涯学習課から(1)夏休みラジオ体操顔見知り運動の実施結果について、(2)図書館まつりの開催について、(3)とよおか家族の日写真コンクールの結果について、(4)野生復帰まつりの開催について、説明をお願いします。

### 3 生涯学習課

#### (1) 夏休みラジオ体操顔見知り運動の実施結果について

《生涯学習課長の説明概要》

資料に基づき説明する。

参加者数の合計は、94.5%の参加で、昨年度に比べて2.6ポイントアップしている。5回以上参加した生徒は、1,550名で、79%、昨年と比べて4ポイント増えている。今年度の特徴は、2年・3年の参加率が上がっている。

地域の子どもは地域で育てよう、顔でつながり声でつながり心でつながる。「増やそう 地域で汗する中高生」という合言葉にいろんな展開をしている。この代表的な取組の1つがこの夏休みラジオ体操顔見知り運動である。平成22年度以降、地域の子どもたちと顔見知りになり、地域でコミュニケーションを取ろう、そして信頼関係を築こうという目標で取り組んできているが、中学生の参加が多くなり、定着しつつあると分析している。地域の運動会や事業などに役割を担うという仕組みのきっかけ作りにもなってきたのではないかと考えている。

子どもの頃にいろんなタイプの大人たちに出会い、その中でコミュニケーションをとることは、将来の人間形成に大きく寄与していくと考えており、この取組を続けていきたい。

#### (2) 図書館まつりの開催について

《生涯学習課長の説明概要》

資料に基づき説明する。

内容は、喫茶コーナー、親子囲碁入門講座を新たに加えた。喫茶コーナーは、新たな図書館の機能として、居場所作りや障害者が社会とつながるきっかけになるための試験的な取組である。喫茶コーナーも親子囲碁入門講座も今まで図書館を使われない方が図書というツールでいろんなことを勉強していただきたいという狙いがある。

#### (3) とよおか家族の日写真コンクールの結果について

#### 《生涯学習課長の説明概要》

チラシに基づき説明する。

とよおか家族の日の啓発は、広報の掲載やチラシの配布を行う。チラシは企業にも配布し、今年度は商工会や商工会議所の会報に有料だが掲載する。各地区の運動会でも放送する。啓発は、まだまだであるので、工夫していく。子育てセンター事業との共催事業や、家読(うちどく)の推進を通じ親子のふれあいを考えていただくような取組を考えている。

今年度、5回目である写真コンクールの写真募集をした。例年20から30の応募があるが、今年は10点あり、そこから3点を選んだ。

添付したチラシは写真コンクールの結果だけではなく、保護者と一緒に家族って何だろうかと考えるきっかけにさせていただく内容とした。

#### (4) 野生復帰まつりの開催について

#### 《生涯学習課長の説明概要》

資料に基づき説明する。

野生復帰まつりは、例年350人前後の親子の参加がある。

キッズワイルドは、野生復帰事業の参加者と一般の方を募集している。事業目的は、親子でアウトドア体験、自然体験をすることであるが、親子のコミュニケーションのきっかけづくり、親の姿を見せる家族の月間事業としても位置付けている。

(教育長)

質問がありましたらお願いします。

(深田委員)

2点あります。1点目は、夏休みラジオ体操顔見知り運動についてです。ラジオ体操には、中学生がよく出てきてくれるようになった、それは各学校の取組の成果だと思えます。以前は、小学校のときのラジオ体操は中学生は行かなくてもいいのだというようなところがあったけれども、今は学校によっては夏休みの間に5回参加するのがノルマだということもあります。やはり中学生が出てくると、区の小さなコミュニティでも大人と話をしている姿が増えてきますので、年がいけばいくほど、「この子はどこの子だったかな」というようなことがあって、そこで話ができるという意味では大変効果があったと思えます。

ここからは質問ですが、小学校区で夏休みラジオ体操顔見知り運動がありましたが、やはりこれは社会教育と連携の部分があるのだと思えます。例えばスポーツ推進員の方が出て、そこでラジオ体操の模範演技をされながら、区によっては区長、会長さんが話をされるところもありました。しかし、全く学校任せで学校の先生がどうしたらいいのだろうという様子で、少し子どもたちがウロウロして、言い方はきついですが右往左往するラジオ体操顔見知り運動であり、どうなのだろうと思われるところもありました。生涯学習部局がスポーツ推進員を指名されていると思えますので、スポーツ推進員の研修会等のときにそういう話をさせていただくということも必要ではないかと思えます。基本的に社会教育というのは、やらされ感が出るものではなくて、自主的な活動が基本だと思えますので、出てくださいと言えない部分があるのかもしれませんが、

研修の中でもそういう話をちょっとしていただく必要があるのではないかと感じました。

2点目です。とよおか家族の日につきましては、教育プランの検証などでも例年、話題になるところです。とよおか家族の日という認識を市民の方にいただくのにいろんな啓発をされ、私も放送を聴いています。このような写真コンクールをされているのも大切なことだと思います。認識が深まれば数は増えるはずだと思うのですが、なぜ応募の写真が減ったのか、その辺はどんなふうに分かれていますか。

(生涯学習課長)

まず1点目の夏休みラジオ体操顔見知り運動の関係です。現在の手法としましては、各学校というよりは今年から地域コミュニティ振興部に青少年健全育成会議という組織がありますので、そこを通じながら盛り上げてくださいますようお願いをさせていただいております。それが例年と同じように学校に丸投げというような格好になっているところがあるのではないかと思います。また、スポーツ推進員さんが前面に出て、ラジオ体操の後に玄さん運動をしたりというところもありますし、しっかりとしたラジオ体操をしようということでラジオ体操の専門の方をお呼びして、1番から3番まできっちりとされるような取組をされているところもあります。さらに終わった後、少し地域でいろんな事業なり、懇親をしようというようなところもありまして、そういったところをどんどん増やしていかなければならないと認識しております。おっしゃっていただいたことは、そのとおりだと思います。

家族の日の関係は、認識されれば確かに増えると思います。今年、写真コンクールの応募者数が減った原因はまだ分析はできていませんが、実はPRの失敗があります。例年広報でお願いをする場所に掲載ができておらず、そのあたりが大きく減少した要素ではないか、また、昨年と同じ方の応募が中心になってきているので、PR不足だったというのが反省する点であると思っています。今後、どうしたらいいのか検討したいと思っています。

(深田委員)

こういうようなことについてはしっかりと分析をして、それに対しての対応を考えていただければと思います。これも大切な行事、事業だと思います。成果を一步でも前に進めることが大切だと思っていますので、よろしくお願いします。

(中川委員)

夏休みラジオ体操顔見知り運動に関連するのですが、今までの教育委員会で毎年各委員から、もう少し何とか参加率をアップする方法はないのかと言ってきて、ここまできました。これは評価したいと思います。地域のコミュニティと子どもたちの教育との関わりですが、自分の身近なコミュニティを見ていると、イベントや福祉関係はそこそこ連携しているが、教育の部分での関わりがあまりないように思えるというのが私の感想です。ただ地域によっては、以前、教育委員会の定例会で言ったのだけど、竹野南小学校区では下校時に子どもたちが自分たちの声で「おじいちゃん、おばあちゃん、これから帰ります」と放送しており、非常に好評だと聞きました。運動会や青少年健全育成などの関わりも大切だが、常日頃、日常的に関わる活動をコミュニティとも一緒にぜひ考えてほしいと思います。地域コミュニティ振興部から見て、全市的に教育へのか



かわりについては、どうでしょうか。

(地域コミュニティ振興部長)

全市的に見て、今の関わりは比較的低いと思います。学校との連携ではそれぞれお互いに情報交換をさせていただいているコミュニティがほとんどだと思いますが、対象が子どもの場合は、いささか苦手感があります。イベント等にはみんな声をかけて、学校や保育園や子どもたちに参加をしてもらうことがありますけれども、それはあくまでもイベント的なことです。行事型から事業型へコミュニティは変わっていかうという合言葉があります。今年が1年目でまだまだ行事型から抜け出せない状態は続いています。地域の課題として子どもがどんどん少なくなっていて、行き帰りも心配な親御さんもたくさんいらっしゃる中で、高齢者の問題も併せて、そういった地域の困り事をどんなふうにコミュニティが関わっていけるのか、それぞれ地域ごとに違うので、そのあたりは地域ごとに意見交換を年に4回持ちますので、こちらからもぜひ問題提起をして、1つの課題として意識をしていただくことは引き続き行っていきたいと思います。教育委員会の場でのご意見をつないでいきたいと思います。10月10日に会議があるので、つないでいきたいと思います。

(中川委員)

ぜひよろしくをお願いします。また、この問題は、地域の側だけではなく、学校側も困っていることなどコミュニティのほうに遠慮せずに言えればいいと思う。教育長から校舎長会の時にでも言ってもらえればいいと思います。よろしくをお願いします。

(教育長)

例えば小学校単位の育成会とかがあつて、子どもたちがそれぞれの地区で健全に育つように、いろいろなことを考えるのだけれども、やはりこれも行事型になっていて、バーベキューをするとか、バスを借りて小旅行に行くとか、楽しいことをいっぱいプレゼントしてあげて、それでコミュニケーションを図ろうなど、そんなことがいっぱいある。でも、そうではなくて、小さいながらも市民としてその地区でできることは何なのか。例えば中学生では、困っていたら雪かきをしようという話が出てくるとか、小さい子でもできるようなゴミ拾いをしようとか、そんな大人と一緒にするとか、あるいはそこから主体性を持って、何かグループができて、それがずっと同じようなかたちでボランティアをやろうとか、そういうことが本当の地域との連携だと思います。ぜひともそれを学校ともつなぎながらやっていきたいと思います。

他にありませんか。

(委員)

なし。

(教育長)

それでは、地域コミュニティ振興部からの報告を終わらせていただきます。

【日程 第5 議事】

(教育長)

日程第5「議事」に移ります。まず、議案第18号「教育財産の用途廃止について」教育総務課長の説明をお願いします。

○議案第18号 教育財産の用途廃止について

《教育総務課長の説明概要》

旧中竹野幼稚園舎を取り壊すため、教育財産の用途を廃止するものである。中竹野幼稚園は、平成24年3月31日に廃園となり、建物は中竹野小学校の倉庫としているが、老朽化で倒壊の危険性がある。跡地は中竹野小学校の駐車スペースにする予定である。

(教育長)

ご質問等、ありますでしょうか。

(委員)

なし。

(教育長)

それでは議案第18号「教育財産の用途廃止について」は原案のとおり可決といたします。

続きまして、報告第15号「平成29年9月市議会答弁概要について」教育次長の報告をお願いします。

○報告第15号 平成29年9月市議会答弁概要について

《平成29年9月議会における教育委員会への質問に対する答弁内容について、当日配付資料により教育次長が報告した。》

(教育長)

質問がありましたら、お願いします。

(中川委員)

直接の質問ではないのですが、不登校のお子さんが使うカリキュラムの内容はどういったものがありますか。

(こども教育課長)

昨年度、小中一貫教育の学習指導と生活指導、いわゆるグリーンシートの取組の一つとして、各小中一貫教育ブロックで「アプローチ&スタートカリキュラム」というものをまとめました。これは、小学校6年生から中学校1年生に上がるときに不登校が急増することを受け、小6の9月から中1の8月までを1年間のサイクルとし、その間に小学校から中学校への接続をなだらかにするために、プレ登校や小中ネットワーク会議などの取組により、子どもたちの不安を解消し

たり、子どもたちの情報を共通理解して引き継ぎを丁寧に行うなど、それぞれの中学校で実践している取組を一覧表にまとめたものです。

(中川委員)

これまで、小学生にアンケートなどを取って、中学生になったらどんなことが心配なのかを調査されていますか。

(こども教育課長)

はい。昨年度でしたら12月に小6にアンケートを取りまして、不安に思っていることを中学校が把握して、その不安軽減のためにどんな取組が必要かということ「アプローチ&スタートカリキュラム」の計画の中に落とし込んで、それぞれ学校で実践しています。

(中川委員)

中学校になって以後も小学校の先生が、たまに中学校の授業を見るとか、逆に中学校の先生が小学校での授業を見て、中学校でも活用しているのですね。そのようなことをやっていることはPRしないといけないのではないのでしょうか。「豊岡きょういく」などでも一生懸命やっていることを知らせないといけない。

(教育長)

ぜひともPRすべきですね。いちばん効果があったと思うのは、6年生が不安に思っている、不安を取り除くことはできないけれども、何かあったときにストレスをどんなふうに解消したらいいか、ストレスは必ず溜まるものですから、ストレスをどんなふうに解消するかという方法を臨床心理士が教えてくれる。それがすごく役に立っています。中学校3年間、ずっとそのことを頭に置いて、そのことがきっかけで臨床心理士になりたいと言った子もいましたから。具体的に何か効果があったことをアピールしていくということも大事ですね。

その他ありますか。

(深田委員)

今の話にも関連しますが、不登校の問題についてはどなたも大変関心が高い。特にこの女性の議員さんなどは、かなり関心を高く持っておられます。小中一貫教育の中身の再検討をおっしゃっているのかどうか分かりませんが、やはり実際に不登校対策を行っていることについては、中川委員がおっしゃったようにきっちりと言うべきだろうと思います。それが不安軽減にもつながるのではないかなと思います。

(中川委員)

この問題もそうですし、がんばりタイム実施校では、全国学力・学習状況調査の正答率が上昇したデータもある。そんなことも知っておいてもらう必要があるのではないかと思う。

(向井委員)

がんばりタイムというのは、私も知らなかったです。子どもは「がんばり、がんばり」と言います。近所の子が夕方遅く帰ってくるのですが、5時ごろに先生が連れて帰ってこられて、私は「がんばり」ということがわからなくて、それが算数の勉強をしていたということがわかりました。がんばりタイムは各学校によって時間数など、まちまちなのですか。

(こども教育課長)

放課後の補充学習ということで、豊岡市では算数をしています。対象となる児童や週に何回するかは、それぞれ学校独自で決めています。これは県の補助事業を受けて、指導員として入ってもらう方に謝金が出ておまして、その対象は、今年12校です。最初は6校で、2年目で8校、3年目11校、今年4年目で12校と、徐々に拡大しています。

(向井委員)

学校の担任の先生が必ずしも教えているというわけではないのですか。

(こども教育課長)

担任の先生も関わっている場合もありますし、そこにまた指導員の方がお手伝いいただいている場合もあります。個に応じた補充授業を行っています。

(深田委員)

コミュニティ・スクールの話が出ていましたが、コミュニティ・スクールは文科省の1つの取り組み方向でもありますけれども、基本的には、将来、公設民営ということになりますよね。そうすると、例えば大学などが独立大学法人になり、いろいろな意味で旧来持っている大学の研究機能などについて、大変危惧されている面があります。また、学生の育成などの面で合理化が進んでいるということも言われています。学校には学校の目的、例えば地域に根ざした将来を担う子どもの育成というようなことになれば、その「地域に根ざした」という言葉だけ捉えればコミュニティとの連動でのコミュニティ・スクール、そして地域のコミュニティがその運営に大きく関わっていくというようなことが大切だというのは理屈ではわかるのですが、そのことと、学校教育というのは、その地域のための子どもをつくるだけの部分ではない。そういうことを考えてこのコミュニティ・スクールのあり方を研究していかなければならないと思います。

三質では、議員から2学期制はどうだと話があり、答弁で大きなメリットはないので、現在のところ導入は考えていないと明確に答えていただいています。2学期制というのは一時大変もてはやされました。高校などでもかなり県の指導の下に進められていましたが、実質的にあまり広がらなかったのは、学校の持つ役割でした。知識を中心とした教育ということを考えれば、2学期制のほうが合理性があるかもしれませんが、人間を育てるという面で言うと、生徒指導・部活動指導など他の学校との関連、他の団体との連携があり、2学期制というのはなかなか難しいところがあります。メリットのないものを急いで取り組む必要はないだろうと思います。このことは、コミュニティ・スクールを検討されていく中でも当てはまることで、しっかりと視点を定めながら研究してほしいと思います。

(教育長)

ありがとうございました。それではここで休憩を取りたいと思います。

### 《休 憩》

(教育長)

それでは、審議を再開します。

報告第16号「寄附物件の受納について」教育総務課長の説明をお願いします。

### ○報告第16号 寄附物件の受納について

#### 《教育総務課長の説明概要》

団体4件、個人1件から寄附物件の申出があり、これを受納したので報告する。

(教育長)

質疑はございますか。

(委員)

なし。

(教育長)

それでは、寄附物件を受納したことをご承知おきください。

### 【日程第6 教育委員会事務局の報告】

(教育長)

それでは日程第6「教育委員会事務局の報告」です。

こども教育課の(1)全国学力・学習状況調査の結果について、(2)PTCA地区別研究大会「豊岡の子どもを育てる会」の開催について、こども教育課長から報告をお願いします。

#### 1 こども教育課

##### (1) 全国学力・学習状況調査の結果について

#### 《こども教育課長の説明概要》

全国学力・学習状況調査の結果について、資料に基づき説明する。

文科省はこれまで都道府県、市町の結果は小数第1位まで公表していたが、序列化や過度な競争を防ぐ観点から、今年度から整数値での公表となった。

学習状況調査の児童生徒質問紙に「自分にはよいところがあると思うか」の質問があるが、その項目では、小中とも昨年度よりも上回り、全国以上になった。また、「将来の夢や目標を持っているか」の質問では、小中学校とも上昇している。このことは、子どもに寄り添う教育を進める豊岡市としては、非常に嬉しいことだと考えている。

今後の取組は、学力向上検討委員会において、結果の分析・授業提案の検討をすることとして

いる。各小中学校では、自校の分析結果を基に現在、夢実現力行動プラン 2017 の作成をしている。

## (2) PTCA 地区別研究大会「豊岡の子どもを育てる会」の開催について

《こども教育課長の説明概要》

資料に基づき説明し、教育委員へ案内をする。

(教育長)

質疑等ありますでしょうか。

(深田委員)

全国学力・学習状況調査の結果で数値が出てくると、悲しいかなマイナスとかプラスとか、0 コンマいくらいのを見えてしまいますが、年度によって受ける生徒の実態が違うから、少しの差異が出てくるのは当たり前だろうと思います。しかし、全国平均から全てにわたってちょっと下がった、落ちていたとなると、市民感覚としてはすごく気になるところです。しかし、大切なのは、分析して、それに対して適切な対策をどう立てるかということだと思いますので、しっかりとこの後予定されていますよう進めていただきたいと思います。2回・3回の分析結果を受けて、授業提案もされ、最終的には周知徹底を図ってほしいと思います。「5つの徹底・継続実践事項」は、ある意味では1つの反省の中から出てきたものであると思いますので、教育研修所とも連携をしながら、各現場の先生が対策を徹底されるようお願いしたいです。

(教育長)

こういう調査は今おっしゃったように、上下5ポイントが有意性がある、意味があるので、それを外れた場合には、ある程度明確な原因がわかるんです。でも、1ポイント、2ポイント上回ったからといって何がよかったか、下がったからといって何が悪かったかというのは、なかなかわかりづらく、市民にこれを示すときにこのかたちでいいのかと、ものすごく迷います。0.5ポイントでも下がったら全国より低いとなるが、やはり世の中の流れで点数をはっきり明記する必要があるため、それに付属してどんなことがよくて、どんなことが課題なのかということをもセットで学校も市も表す、そうしたいと思っています。結果にそんなにショックを受けているわけではありませんし、国のやっていることはやっている。ただ、問題がいくつかあるということも確かで、学校間格差があるということがわかりました。また、40%以下の子の割合が大きいと平均点が下がりますから、その子たちをいかにフォローしていくのかは、しっかり学校も取り組んでいかなければならない。がんばりタイムなどは1つのいい手法かなと思います。1点、2点で一喜一憂しないことは、先程、課長が言ったとおりで、私たちは内容的に見て、授業の質を上げることを焦点に当ててがんばっていきたいと思っています。

(教育長)

次に移ります。「豊岡市こども支援センター活動状況報告等について」こども支援センター所長の説明をお願いします。

(3) 豊岡市こども支援センターの活動報告等について

《こども教育課参事（こども支援センター所長）の報告概要》

資料に基づき説明する。

8月は夏休みのため、8月の上旬と下旬にふれあいルームを解放した。中学生4名が延べ14回来ていた。

家庭児童相談では、夏休みで1日中子どもさんとおられるためだと思われるが、泣き声通告などが何件か入った。

(教育長)

質疑・ご意見がありますでしょうか。

(委員)

なし。

(教育長)

それでは、こども育成課の(1)「豊岡市子育て支援ガイドブック」の官民協働発行にかかる協定の締結について、(2)平成30年4月1日開設の小規模保育事業者の選考結果について、こども育成課長から説明をお願いします。

3 こども育成課

(1)「豊岡市子育て支援ガイドブック」の官民協働発行にかかる協定の締結について

《こども育成課長の説明概要》

資料に基づき説明する。

豊岡市子育て支援ガイドブックは、子育て情報の提供の一環として、市の子育て支援関連の制度や事業等を冊子としてまとめたもので、母子手帳の交付時や子育て世帯の方が転入してこられた際に配布している。

この冊子は、庁内印刷により担当課で作成していたが、発行時期が年度当初で、年度末から年度当初の繁忙時期に重なり、事務量の負担が大きな課題となっていた。この度、(株)ホープから、官民協働発行の提案があり、協定を締結して発行する。

(2)平成30年4月1日開設の小規模保育事業者の選考結果について

《こども育成課長の説明概要》

資料に基づき、説明する。

平成30年4月1日に開設した小規模保育事業者の選考結果について報告する。応募のあった事業者が提案する施設について、認可基準を満たしているかどうかを事務局で確認し、選考委員会を開催した。選考委員会で内容審査及び法人へのヒアリングを行い、相対評価で採点し、決定した。

(教育長)

質疑・ご意見がありますでしょうか。

(中川委員)

小規模保育事業者の選考ですが、2つの法人からあったということですが、もう一つの法人がどこかをお尋ねするつもりはありませんが、社会福祉法人豊友会に決めたのは、特にどういった観点でしたか。

(こども育成課長)

8月30日の審査会におきましては、法人からの聞き取り調査を行いまして、この取組に対する意気込みなどをプレゼンしていただきました。審査項目につきましては、どういった理念を持っておられるかとか、意欲がどうであるとか、それから、保育の内容に対する考え方であるとか、給食に対する考え方、保育時間に対する考え方など、基本的なことについての項目もあります。それから、地域の理解、保護者との連絡・連携に対する園の考え方、苦情処理や地域・関係機関との関わり、資金計画、経営の状況等についても見させていただいている中で、審査員の方に点数をつけていただきまして、相対評価の点数によってこちらの法人が選考されました。

(中川委員)

質問の項目の中には、市が進めようとしている保育・教育に対する理解度、協力度などについて入っていますか。

(こども育成課長)

はい、入っています。具体的にその点数は申し上げられませんが、相対的に20項目にわたって点数をつけておりますので、その中で評価させていただいております。

(中川委員)

わかりました。

(教育長)

その他よろしいですか。

(深田委員)

姫路市のこともありますので、いろんな意味で市民の関心の高いことでもあります。そのあたりのところは審査の中で十分クリアした園であると理解させていただきます。その後のチェック、指導、支援などが大切だと思いますので、しっかりと今後の運営に関する支援等々について、十分徹底を図っていただきたいということだけを申し添えておきます。

## 【日程 第7 委員活動報告】

(教育長)

続きまして、日程第7「委員活動報告」に移ります。短時間で結構ですので、感想を含めて活



動で感じられたことがありましたら、お願いしたいと思います。

(深田委員)

運動会に参加させていただきました。そこで感じたことを1つだけお話させていただきます。どの学校も小学校・中学校も大規模校であれば大規模校なりに、小学校の小規模校は小規模校なりに保護者の協力支援が大切だなということを感じました。そういう中で最近小学校の保護者の方から聞く言葉の中に、PTAというのは学校の支援をするのが当たり前、つまり下請けみたいなものだという声を聞いたりすることがあります。そうではなくて、PTAは自立した組織であり、機関であり、自立的に学校に対して協力・協議をして、児童・生徒の教育に協力していくという質のものであると思っておりますので、その辺のことについてもう一度各学校でもしっかりとPTAのあり方等について、PTAの役員さんだけではなくて全体との間にやりとりをしたり、アンケートなどで保護者の意見を伺うということがあってもいいのかなということを感じました。大変協力していただいて、スムーズに運動会が進んでいると見受けられましたので感謝をしておりますが、そういう問題も感じました。

(向井委員)

私も中学校1校と小学校2校の体育祭を拝見しました。中学校は日高西中学校だったのですが、とても落ち着いていて、服装の乱れもなく、靴もきちんと履いて立派な入場行進でした。また、あいさつを聞く態度が本当にすばらしくて、あいさつをされる方の目をみんなが見て、それが素敵だと思い感動しました。小学校は1校だけ開会式に出られたのですが、児童会長のあいさつが立派で感心しました。

それから、委員会活動ではないのですが、8月の終わりに豊岡市文化芸術政策シンポジウム「文化芸術による小さな世界都市の実現」に行きました。文化芸術の地方創生と題して平田オリザ先生が講演をされました。その中で豊岡市教育委員会の取組を紹介してくださいました。特にコミュニケーション教育につきましては、2020年には、大学入試が変わって、自分をどのように表現していくかという力をつけるのが大変重要で、コミュニケーション教育がすごく大切だとおっしゃっていました。大学受験に関して、都会の中高一貫校などはもうすでに大学入試に向けた学習指導法を導入していて、有名大学に入るための施策をすでに行っており、地方ではまだまだ対応されておらず、難しいだろうということを懸念されていました。地方の学校の対策が遅れないようにしていただけたらいいなと感じました。最後に平田オリザ先生が2年後に劇団を豊岡に移転され、いずれはご自分も豊岡に移住したいということをおっしゃっていて、なんで豊岡にというと、豊岡市は市長を始め市職員の方々が一丸となって豊岡市を盛り上げていく姿勢に魅力を感じるということをおっしゃっておられ、嬉しい1日でした。

(中川委員)

委員活動は体育祭、運動会だったのですが、今年は台風襲来となり、現場では開催日程とか、あるいは当日のグラウンド整備などで教職員の皆さんやPTAの役員さんは本当に大変だったと思います。無事に終わってよかったなと思います。詳細は報告書を提出しましたから、またご覧ください。

(佐伯委員)

私は運動会に行かせてもらいました。教育委員としては竹野中学校しか行けていません。感想にも書かせていただきましたが、人数が少ない中での学年対抗でした。1年生・2年生・3年生の対抗でした。そうなると徒競走など1年生にハンディの距離は与えているとはおっしゃるのですが、やはり体格からしても全然違い、コンパスが違います。1年生はがんばっているのですが、どうしても1位になれない。すごくかわいそうだなと思いました。いろんな競技があるのですが、全ての競技で1年生がやはり大変だなと思いました。去年から学年別対抗が始まったそうですが、去年見られた保護者の皆さんから、ちょっとこれは無理があるのではないか、改善してほしいという意見があったそうですが、それが改善されず今年も学年対抗になったようです。もう一度保護者の皆さんと学校とが話し合っ、いい方向に持って行っていただきたいと思います。

北中学校へは保護者として行きました。開会式でいろいろな方のあいさつがありましたが、暑かったこともあり、結局開会式の中で10数人が倒れて担架で運ばれたり先生に抱えられて救護されている子がいました。炎天下でしたら、なるべくあいさつする人たちがそれぞれちょっと短めにとか、そういうことを前もって学校側からお願いをされたらいかがかと思います。子どもたちの選手宣誓もすばらしかったのですが、長い。もう少しそれも短めにして、みんなが競技に出られるような状態に持って行っていただけたらなと思いました。

## 【日程 第8 教育委員会活動予定】

(教育長)

続いて日程第8「教育委員会の活動予定」に入ります。次回の教育委員会の会議予定や今後の活動につきまして、教育総務係長の説明をお願いします。

### 1 次回教育委員会会議の日程について

#### 《教育総務課係長の説明概要》

次回の教育委員会会議、第7回定例会は10月31日(火)午後1時30分から、日高庁舎3階の第3会議室で行う。定例会終了後、概ね午後3時30分から教育委員の学習会を予定している。

第8回定例会は、教育委員の日程を調整し、11月21日(火)午後1時30分から出石庁舎で開催する。

### 2 今後の活動・行事予定

#### 《教育総務課係長の説明概要》

今後の活動・行事予定を資料に基づき説明する。

(教育長)

活動予定につきまして何か質疑はありませんでしょうか。

それでは以上で日程の終了となります。次回の定例教育委員会会議は10月31日午後1時30分から日高庁舎で行います。

これをもちまして第6回定例教育委員会会議を閉会します。

---

閉会 午後3時40分

---